

第99回火山噴火予知連絡会

全国の火山活動について

浅間山では、9月1日の爆発的噴火以降も時折噴火が発生するなど火山活動は活発な状態が続いています。別紙のとおり統一見解を発表しました。

三宅島の火山活動には大きな変化はありません。依然として山頂火口からは多量の二酸化硫黄を含む火山ガスが放出されています。現在程度の火山ガスの放出は当分継続すると考えられます。

阿蘇山では、1月14日の規模の大きな土砂噴出発生後、火山性地震、孤立型微動とも減少しましたが、火口底の湯だまり内では小規模な土砂噴出が9月下旬まで発生するなど火山活動はやや活発な状態が続いています。今後、火山活動が活発化すれば噴石を火口外へ放出するような噴火が発生する可能性もあります。

全国の火山活動状況は以下のとおりです。

1. 北海道地方

1) 雌阿寒岳

- ・ボンマチネシリ96-1火口は300℃以上の高温が続いており、火山活動は引き続きやや活発な状態です。火口近傍では注意が必要です。

2) 十勝岳

- ・2月と4月にごく少量の火山灰噴出があった62-2火口は、噴煙活動が活発で高温が続いており、火山活動は引き続きやや活発な状態です。今後も火山灰混じりの有色噴煙が見られる可能性があります。

3) 樽前山

- ・A火口およびB噴気孔群では400℃以上の高温が続いており、火山活動は引き続きやや活発な状態です。火口近傍では注意が必要です。

4) 有珠山

- ・火山活動に変化はなく、静穏に経過しています。

5) 北海道駒ヶ岳

- ・噴気活動や地震活動は低いレベルで経過しています。
- ・わずかな山体膨張は引き続き観測され、火口近傍では温度や地殻変動にわずかな変化が認められます。また、平成8年から平成12年までの間に小噴火が繰り返し発生しており昭和4年大噴火や昭和17年中噴火の前の状況に類似しています。しばらくは活動推移を見守る必要があります。

2. 東北地方

1) 岩手山

- ・東岩手山のやや深いところを震源とする低周波地震は引き続き発生していますが、4月以降少なくなっています。
- ・黒倉山山頂の噴気の高さは低下傾向にあります。
- ・黒倉山周辺で継続していた局所的な地殻変動も停止しました。
- ・以上のように、火山活動は静穏に経過しています。

2) 秋田駒ヶ岳

- ・火山活動に変化はなく、静穏に経過しています。

3) 吾妻山

- ・7月から8月上旬にかけて地震回数がやや増加しましたが、火山活動は平成16年1月をピークに低下傾向が続いています。

- 4) 安達太良山
 - ・地震活動は静穏に経過し、沼ノ平火口付近の噴気活動は平成15年前半と比較して低下しており、火山活動は静穏に経過しています。
- 5) 磐梯山
 - ・火山活動に変化はなく、静穏に経過しています。

3. 関東・中部地方

- 1) 那須岳
 - ・火山活動に変化はなく、静穏に経過しています。
- 2) 草津白根山
 - ・噴気温度は高い状態が続いていますが、地震は少なく火山活動は静穏に経過しています。
- 3) 浅間山【火山活動度レベル3(山頂火口で小から中噴火発生)】
 - ・別紙のとおり統一見解を発表しました。
- 4) 御嶽山
 - ・火山活動に変化はなく、静穏に経過しています。
- 5) 富士山
 - ・火山活動に変化はなく、静穏に経過しています。
- 6) 伊豆東部火山群
 - ・火山活動に変化はなく、静穏に経過しています。
- 7) 伊豆大島【火山活動度レベル1(静穏な火山活動)】
 - ・西部、中央部、東部で地震活動が一時的に活発化しました。
 - ・島全体が膨張する傾向は継続しています。
 - ・長期的には、地震活動、島の膨張傾向に顕著な変化はなく、火山活動は静穏に経過しています。
- 8) 三宅島
 - ・6月の統一見解以降、火山活動に大きな変化はありません。詳細は以下のとおりです。
 - ・二酸化硫黄の放出量は最近約2年間、1日あたり3千～1万トン程度で概ね横ばいです。放熱率は平成14年夏以降、緩やかに減少していますが、火山ガスの組成や火口内の温度にはほとんど変化はありません。全磁力観測からは、山頂火口直下の温度は平成14年以降長期的に低下していると推定されます。
 - ・山麓に降灰をもたらすような噴火は平成14年11月24日以降観測されていません。
 - ・地震活動は依然活発な状態が続いていますが、やや減少傾向にあります。マグマの脱ガスによると推定される島の収縮は最近2年間は緩慢になってきていますが、現在も継続しています。
 - ・以上のように、火山活動は、全体として最近約2年間大きな変化はなく、現段階で火山活動が活発化する兆候はみられません。ただし、これまで同様、小規模な火山灰の噴出などの可能性はあると考えられます。また、現在程度の火山ガスの放出は当分継続すると考えられます。今後も局所的に高い二酸化硫黄濃度が観測されることもありますので、風下に当たる地区では引き続き火山ガスに対する警戒が必要です。また、雨による泥石流にも引き続き注意が必要です。
- 9) 硫黄島
 - ・地震活動は比較的静穏ですが、地殻変動は続いています。

4. 九州地方

- 1) 九重山
 - ・火山活動に変化はなく、静穏に経過しています。
- 2) 阿蘇山【火山活動度レベル2(やや活発な火山活動)】
 - ・火口底の湯だまり量は降水による一時的な増加はあるものの、その後は再び減少するなど熱的活動は引き続きやや活発な状態です。
 - ・1月14日以降、規模の大きな土砂噴出は発生していませんが、湯だまり内の小規模な土砂噴出は9月下旬まで続きました。
 - ・火山性地震、孤立型微動とも3月以降減少しましたが、火山性連続微動が3月以降発生するようになり、5月中旬以降はほぼ連続して発生しています。
 - ・以上のように、火山活動はやや活発な状態が続いています。今後、火山活動が活発化すれば噴石を火口外へ放出するような噴火の可能性もあります。火口周辺では注意が必要です。
- 3) 雲仙岳【火山活動度レベル1(静穏な火山活動)】
 - ・火山活動に変化はなく、静穏に経過しています。

4) 霧島山

- ・新燃岳付近の火山活動は、静穏に経過しています。
- ・御鉢火口では時折火口縁を越える噴気が観測されるなど、火山活動はやや活発な状態が続いています。火口内および南側火口縁では注意が必要です。

5) 桜島【火山活動度レベル2(比較的静穏な噴火活動)】

- ・桜島南岳では今期間も噴火が発生しましたが、桜島の活動としては比較的静穏な状態で経過しています。
- ・火山性地震、火山性微動は少ない状態で経過しています。そのなかでA型地震^{*}はやや多く、今後火山活動が活発になる可能性があります。

※火山性地震には、通常の構造性地震と同じようなP波、S波が明瞭で高周波の波動からなるA型地震と、位相が不明瞭な低周波のB型地震があります。桜島のA型地震は、マグマ等の貫入に伴い地殻が破壊されるために発生していると考えられ、B型地震はマグマ内の火山ガスの発泡等によって火道内で発生する地震とされています。過去の活動において、A型地震が多発したり、震源が浅部に移動した後、B型地震が増加し噴火活動が活発になった事例があります。

6) 薩摩硫黄島

- ・噴火は時折発生しており、火山活動はやや活発な状態が続いています。

7) 口永良部島

- ・火山活動に変化はなく、静穏に経過しています。

8) 諏訪之瀬島

- ・6月7日～9日に97回の爆発的噴火が発生し、それ以降も時折噴火が発生しており、火山活動はやや活発な状態が続いています。

5. 海底火山

- ・福徳岡ノ場では、変色水が度々観測されています。